

が鉛筆でフロッタージュしたものの。2022年の始めに3331主催で開催した「オルタナティブ！小池一子展」を担当させて頂いたことも相まって、佐賀町のアウラを写しとった作品にこの集大成となる3331 ART FAIRで出会えたことは、自分にとっても必然の出来事なのではないかと思えます。

風澤 俊一 [風澤俊一賞]

赤池 完介 (Galleries-1F CREATIVE SPACE HAYASHI)

福住 憲一 [KEN FINE ART 賞]

鮫島 ゆい (SelectionGYM-2F 高橋亮 推薦)

彼女の作品を自宅の壁に掛けてみたいと思い購入しました。鮫島さんの作品は度々拝見させて頂いたことがあり、気になっていた作家さんでした。鮫島さん、この度は、作品を分けて頂きありがとうございました。大切にさせていただきます。また、鮫島さんご本人と鮫島さんの作品に出会えることを楽しみにしております。

堀内 勉 [ソーシャルイノベーション賞]

長谷川 彩織 (Galleries-1F Bohemian's Guild by Natsume-Books)

長谷川彩織さんの今回の作品「迷子の風景」は、アーツ千代田3331会場の入口正面に展示されていて、会場に入った瞬間に目を惹かれて購入を決意しました。自然を題材にした長谷川さんの絵は、色彩感覚に優れていて、きっとこの絵を飾ったら部屋が明るくなるだろうなと思い、自宅に飾っている絵と置き換えることにしました。残念ながら当日は長谷川さんご本人にはお目にかかれませんでした。が、いつか直接お目にかかって、今回購入させて頂いた絵のストーリーを伺ってみたいと思います。

前川 俊作 [前川俊作賞]

小林 椋 (Galleries-1F トーキョーアーツアンドスペース)

以前から興味を持っていた作家です。今回、素材が木からプラスチックに変わったことで以前より“へなちょこな感じ”が増してギュッと心を掴まれてしまいました。この作品、いったいどこに飾ろうと思案するのも楽しいです。

三沢 恵子 [アートエバンジェリスト協会賞]

菅原 果歩 (SelectionGYM-2F 秋田公立美術大学)

とかくせわしない日常の中で、別世界に連れ出してくれるのがアートの醍醐味のひとつとするのならば、鳥を取り巻く「ストーリー」を感じさせてくれた作品群からは、まさにそれを味わうことができました。

《無窮の地で》、まるでパラレルワールドのようにも思える作品の中に意識は向かい、私たちはそこにある自然を思い、過ぎゆく時間に思いを馳せ、作家と同じ空間に立つことが出来ます。鳥をきっかけにして見えてくる自然と時空と自分につながるアート。

菅原さんの真摯なまなざしから、またどんな魅力的な作品が生み出されるのか楽しみにしています。

皆川 伸一郎 [皆川伸一郎賞]

イ・ハック (Galleries-1F Gallery IRRITUM Tokyo)

会場に入って一番最初に目に飛び込んできたのが、この絵でした。少女をかわいらしさだけでなく、精神的な強さ表現しているのだらうと思いました。またどこかの展示会で次の作品を見るのが楽しみです。

オオタキヨオ (Galleries-1F Gallery TK2)

何度かグループ展で作品を見て気になっていたアーティスト。私は諸事情から、基本的に立体はたとえ気に入ってもコレクションに加えないことにしているのですが、その縛りを超えて作品が持つモアレ効果に惹かれました。オオタさんの超エリートな学歴やそれを捨ててアーティストとして世界に出るといった意気込みも併せて応援したいと思います。

川村 摩那 (Galleries-1F DMOARTS)

配色のキレイさに目が留まりました。私は明るくきれいな色のかわいいキャラクターの作品を購入することからコレクションを始めたので、初心に戻り、川村さんに注目します。

佐藤 明日香 (SelectionGYM-2F ex-chamber museum 推薦)

多くの作品を見て、少々、「絵疲れ」を感じていた時に佐藤さんの猫ちゃんたちに出会いました。細かく丁寧に一匹一匹描かれていて、その中にはきっと我が家のワンコに似ているのもありそうで届いたらゆっくり見るのが楽しみです。

都橋 はる美 [都橋はる美賞]

柳 哲也 (Galleries-1F TRI-FOLD OSAKA)

サロンモザイクアトリエ三月 / サロンモザイク / gekilin.)

昨年に引き続き選んでしまいました。3坪の極小店内にマッチする小品ながらインパクト十分。エナジーをいただきます。

宮本 初音 [ART BASE 88 (宮本初音) 賞]

泉川 のはな (SelectionGYM-2F 土屋誠一 推薦)

いろんな要素が混じり合っていてその中に美しさ(希望)を見出そうとする気配に惹かれた。

本橋 弓絃 [本橋弓絃賞]

ききキカコ (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

純銅の肌、緑青色の複雑で美しいマーブル模様は、見飽きることはありません。ベルを鳴らすと、ふと、子どものころに、画家だった祖父の自然豊かな家で遊んだ記憶がよみがえりました。吊り下げたベルのそばに、野趣あふれる花や蔦をいけてみたいと思います。

田中 里姫 (ファースト・パトローネージュ・プログラム)

外側のガラス器に重なる、内側のオレンジ色のガラス器がゆらゆらと揺れ動き、陽の光を反射して、さまざまな姿を見せてくれました。これからも机の上に飾って眺めながら、日々美しい表情を見つけていきたいと思っています。

森下 泰輔 [アートラボで賞]

二宮 千都子 (Galleries-1F KATSUMI YAMATO GALLERY)

二宮千都子は、学生時代は法律を専攻し、金融機関のSE(システムエンジニア)として業務従事した後、現代アート作家として活動中だ。彼女は制作を「実証実験」「研究」と呼び、コンピュータのプログラム言語をキャンバス上に作品化している。2045年、テクノロジカル・シンギュラリティ(技術的特異点)が訪れ、我々の世界はこれまでの直線的な形ではなく、指数関数的(劇的)に進化していく、との説がある。正確な年号等はさておき、情報技術の発展が驚くべき速さで進んでいるのは確かである。まさに私達はその過渡期に生きている。二宮は現代アートという手段を以って、「これからの時代」へと同調している楽しみなアーティストだ。